

## 釣れ釣れなるままに

2013年思い出の釣行記 PART. 7

# 風にも負けず？

## 鹿島釣狂

### 塩と生

イソメに塩をしたものと生とではどちらがよいのだろう。寿都漁港では塩エビ粉で締めたいソメを使ったが、海水に戻してみると見た目は生イソメと変わらず食いもよかったように思った。しかし私は、海水の中でイソメが自力でピロピロと体を揺らす仕草に魚が誘惑されるのだと思っている。死んでしまったイソメではその芸当が出来ずに、ただ単に潮の流れに身を任せて漂っているだけだと思うのだ。単に遠投が効くからと塩で締めているだけで、近投では生イソメが断然優れていると思っている。海の中でハリに刺された生イソメがどれだけ魅惑的な動きを醸し出しているかは実際に見たことがないので自信はないのだが・・・。

塩をしたイソメと生のイソメの食味は魚にとってどうなのだろう。人間が食する魚で考えてみよう。刺身などは、活きのいいほうが食感もよくて美味しいと思っているが、一晩冷蔵庫で寝かしたほうが美味しいというのも聞いている。焼き魚はカレイやホッケなどは乾したほうが味が濃くなり美味しいとは思う。塩辛は漬け込んですぐ食べるより熟成させたほうが美味しいと思っているが、人それぞれのような気もする。魚の種類によって生か塩かで違っているのだろうか。考えれば疑問が深まり、際限がないのでこのぐらいにしておくことにしよう。

5月11日、寿都港～栄浜港で開催された「とんとん会」の大会に参加させて頂いた。今回は、イソメ、甘エビ、マス塩エビ粉で締めて持っていった。大きな赤ホヤが売っていたのでこれも相掛け用にと購入した。ホヤは勿論塩辛にせず生で使うのだ

## 風との戦い

堀内氏と一緒に栄磯で降りた。風が強くて防潮堤のすぐ脇にある舟揚場が風を凌げるといふ思いで同じ舟揚場に入ることになった。堀内氏が正面を狙うというので私は防潮堤側に沿って竿を出した。15m以上の風が吹くという予報どおり、防潮堤の上を強風が通り抜けていく。出し風で防潮堤の陰になるので、さほど気にはならないのだが、時折、防潮堤から回り込んだ突風で竿がなぎ倒された。魚のアタリがない上に三脚を何度も倒されたことに嫌気が差して、堀内氏は本目漁港にと逃げ込んでしまった。



最初に入った舟揚場。風は防潮堤に遮られて波は全くない。べた風の海面に強い風によるさざ波が立った

小さなアタリがあるが魚が乗らない。その魚を何とか取り込もうと打ち続けて、移動するきっかけをつかめないまま時間ばかりが経ってしまった。埒が明かないので付近の様子を見て回る。栄磯大平盤の先端まで行って見たが風がまともに吹き付けて立っていることさえままならない。仕方なく違う舟揚場で竿を出すことにした。舟揚場から沖に向かって刺し網が仕掛けられており、魚の通り道にあたるのが伺えたがそこでもアタリは全く出なかった。

午前5時、強風を押し切って平盤先端に出ることにした。立っていると体が強風に煽られるので平盤に這い蹲るようにして準備した。三脚を一番低くして立て、竿先だけを三脚に乗せて倒れるのを防ぐ。そして、しゃがみ込んだままの体制で竿を振り込んだ。低い体

勢のままアタリの出ない仕掛けを回収し、コマセをネットに詰め込み、ゴロを付け替えて振り込む動作を何度も繰り返した。何を間違えたか1度だけ型のよいホッケが来ただけで、それ以外は最後までアタリは出なかった。情けない。何でこんな過酷な釣りをしているのだろう。



栄磯平盤左先端部に竿を設置するも、這いつくばるような風だった。磯際は全く波がないのだが、沖はウサギが飛び交っていた。

### ヤマセ

午前8時には片づけを終えて、今後の為に付近の磯の様子を見学することにした。時間がたっぷりあるので厚瀬崎をグルッと一周することにして、まずは厚瀬崎の基部にある本目漁港に立ち寄ってみた。すると漁港の奥まったところで風を避けるように堀内氏がいた。彼は「一緒にバスに乗った竿道会の菅原氏に電話をかけて漁港の様子を聞いた上でここに来て竿を出した。すると型のいいアカハラが4本来て何とか形が出来た。後は嫁を狙うだけになった。」と少し明るい顔で話してくれた。

厚瀬崎に向かった。厚瀬崎は海藻に覆われた低い平盤が連なり、その先は深く青い海原が広がっているように見えた。しかし、海底の海藻は少ないように思う。こけし人形のような目立つ立岩があり、その前が一番のポイントと見た。仕掛けが落ちていた。木で天秤を作ってそれが浮くようにした仕掛けだ。とても手の込んだもので作り手の思いが込められているようだった。



落ちていた仕掛け

審査は弁慶岬にある休憩所で行った。「とんとん会」幹事長を務める湯浅伸一氏が忙しく立ち振る舞っていたが、彼が今回の優勝者だった。ヤマセで魚が沖に出てしまった状況で釣果が薄い中、ワスリできっちりと魚を揃えてきていたのだ。彼は自分から進んで釣りの状況を話す人ではないが、今日の優勝にいたる状況を尋ねたときには快くしかも丁寧に解説してくれた。また、会員が途中、シラスを買う為に店に立ち寄って欲しいという要望を出していたのだが、湯浅氏が睡魔に勝てず、ついウトウトしてしまったのか、店を見逃してしまった。それを弁解もせずひたすら「どうも、すみません」と頭を下げるばかりであった。その仕草には謙虚な人柄が偲ばれて非常に好感が持てた。釣り人こうでなくちゃあ。釣れないことをあれこれと他の所為に行っている自分と大違いだ。自戒。

しかし、東風でいわゆるヤマセになると魚が全くエサを取らない状況になるのは、なぜだろう。強風によって沖波はでるのだが、磯際は風による漣だけで全く波が立たないのである。打ったゴロがそのままの形で戻ってくることで、海底では全く潮が動いていないことが伝わってくる。前回この栄磯平盤に乗った時は、1mほどの波でも磯際の岩が洗われホッケが湧いて来ていたのだが……。今日はピチャッとも言わない。この付近のどの磯でも同じような状況なので、臨機応変が出来なかったのだ。またまた言い訳をしてしまった。自戒。



優勝者湯浅伸一氏の魚 アブラコ3、クロガシラ1、ホッケ1